楽しい郷土史だより　第４号

平成 29 年３月　裾野市教育委員会生涯学習課

裾野市史の編さん事業は、昭和 62 年から始まりました。平成 3 年、「資料編　深良用水」から発行が始まり、最終巻である「通史編Ⅱ」が発行されたのが平成 13 年のことです。このように、長い年月と多くの方々のご協力により編さんされた裾野市史は、私たちに、裾野市の成り立ちや昔の人々の生活を教えてくれます。

最終巻の発行から 15 年たった今、改めて裾野市史を例にとり、私たちの郷土史を紹介します。

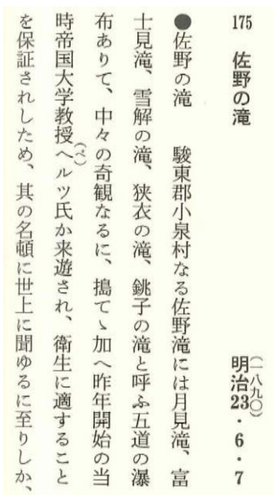
そういえば昔、爺さんから聞いたなぁ。

市史第４巻　資料編　近現代１

近代日本の入口、明治維新。「近現代Ⅰ」では、ここから第１次世界大戦期までを取り扱っています。明治維新に始まった日本社会の近代化が、草の根の民衆生活にまで浸透していった変革期、郷土の人々の生活はどのように変わっていったのでしょうか？

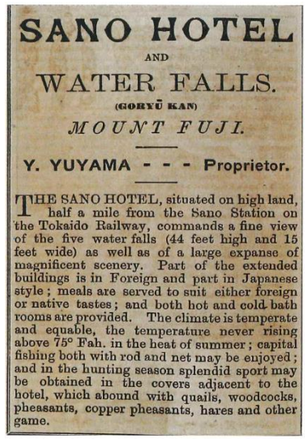
今から 100 年と少し前。時代が新しい分、今も残っているものや、想像しやすい内容がたくさん出てきます。

大人の知的好奇心をくすぐる、ズッシリ重い一冊。ぜひ手に取ってみてください。



175　佐野の滝　（明治23・6・7）

●佐野の滝　駿東郡小泉村なる佐野滝には月見滝、富士見滝、雪解の滝、狭衣の滝、銚子の滝と呼ぶ五道の瀑布ありて、中々の奇観なるに、搗てゝ加へ昨年開始の当時帝国大学教授ベルツ氏が来遊され、衛生に適することを保証されしため、其の名頓に世上に聞ゆるに至りしか、



SANO HOTEL
AND
WATER FALLS.
(GORYŪ KAN)
MOUNT FUJI.
Y. YUYAMA - - - Proprietor.

THE SANO HOTEL, situated on high land, half a mile from the Sano Station on the Tokaido Railway, commands a fine view of the five water falls (44 feet high and 15 feet wide) as well as of a large expanse of magnificent scenery. Part of the extended buildings is in Foreign and part in Japanese style; meals are served to suit either foreign or native tastes; and both hot and cold bath rooms are provided. The climate is temperate and equable, the temperature never rising above 75° Fah. in the heat of summer; capital fishing both with rod and net may be enjoyed; and in the hunting season splendid sport may be obtained in the covers adjacent to the hotel, which abound with quails, woodcocks, pheasants, copper pheasants, hares and other game.

↑五竜館「佐野ホテル」ガイドブック

佐野瀑園の図（本文資料No.2参照）　横山正美氏所蔵

中央公園に、三島溶岩流の断面と、流れ落ちる５条の滝が力強い「五竜の滝」があります。

明治 23 年（1890）、滝のすばらしい景観を生かし、ここに五龍館ホテルが建設されました。左の絵図には、茅葺（かやぶ）き屋根のホテルや四阿（あずまや）などの建物、川に舟を浮かべている様子などが描かれています。後に宮内省侍医を務めたベルツ博士が、当地の気候を「殊（こと）に脚気（かっけ）転養の地に適す」と保証し、大正天皇や昭和天皇も皇太子時代にご訪問されるなど、地域を代表する一大観光地でした。

ホテルは昭和のはじめまで営業されていたようで、建物やその跡を記憶している方もいるのではないでしょうか。

大変だ！文明開化がやってきた！！

裾野市史　第４巻

▲景ヶ島　は聖徳太子の開基にして天然の岩石へ観音の像を刻したるなり。堂宇古くして建設年月不詳、真に名の如く天然の景に富む。

▲屏風岩　は景ヶ島附近にあり。宛然屏風を建てたる如き天然の岩石あり。写真洋画の資に富む。

▲鈴木農場　は佐野瀑園附近にあり。

▲桃薗親王の陵　は鈴木農場内にあり。親王は清和天皇の皇子桃薗貞純親王を祀る。皇子嘗て富士駿東二郡を領せられ、延喜十六年此富岡村桃園に薨（こう）ぜらる。

↑須山口登山道沿道の名所旧跡

第一章　「近代化」への道

第二章　地域社会の再編成の中で

第三章　帝国日本と地域村落

価格：5,000 円

販売・お問い合わせ
生涯学習センター（市生涯学習課）
住所：深良 435 番地
電話：055-992-3800

明治期の小学校教科書

180　明治二〇年代の暮らし

生活の事

◎食事　昔は大低の家で麦に手間を惜まず「つぶし麦」の無い時代で、搗いた麦を鍋に入れて久〳〵と煮るのです。そしてよく煮えた時に、米は全然混ぜない全部麦（素麦と云ふ）を用ゐたのも有つた様です。お菜にしても之に準じたもので、平常は香の物や、味噌汁其の他至極簡単な塩魚などでした。勿論砂糖など使用する家は極く僅かで、「香の物」へ醤油などかける家はあまり無かつたのです。多くの家で白い御飯を食べるのは節句か正月、祝祭日位のもの丶様でした。其の他「さしみ」や「鶏肉」など、病人ででもなければ食べさせるものではない様に考へて居た人も相当あつたらしいです。

明治期の暮らしぶりとは…

明治 21 年（1888）頃の軍事郵便

“まち” “人”をつなぐ、“みち”の発達

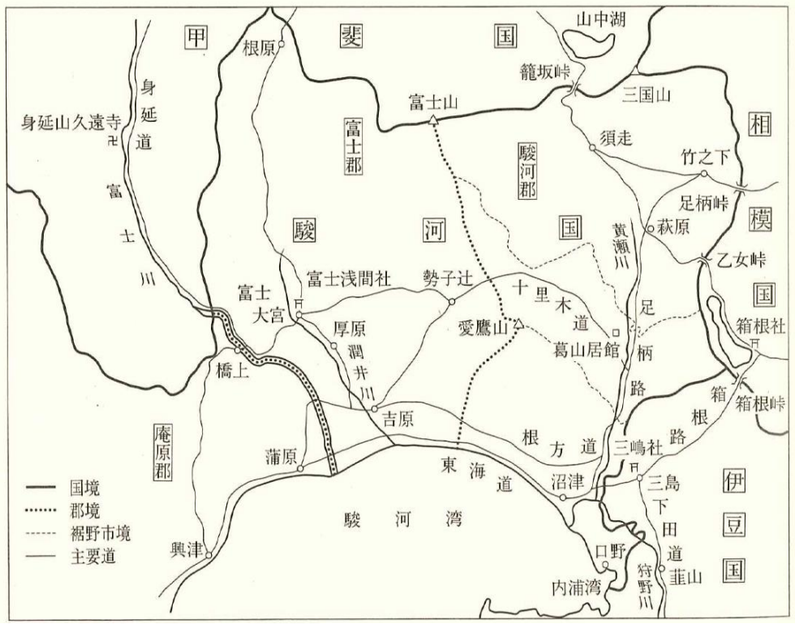
「駿東郡の主要交通路」

駿東郡は北を富士山に、東を愛鷹連峰に、西を箱根外輪山にと三方を山に囲まれていますが、足柄峠を越えれば関東に抜けることができるので、古くから交通上の要地と見なされてきました。代表的な街道は、旧東海道である足柄路や、十里木道です。

「みちの歴史」

国を挙げての街道整備が始まったのは、大化の改新（645 年）からと言われています。そして鎌倉時代（1180 年～）になると、幕府のある鎌倉と、京都とを結ぶ東海道は主要街道の中でも特に重要視されたようです。その頃の東海道は、富士宮から沼津、そして駿東郡を通り足柄峠を越えて関東に抜ける、いわゆる足柄路で、幕府の官道として将軍様から庶民まで色々な人たちが通った幹線道路でした。

図表 2－23　駿河・富士郡交通路概念図



江戸時代初期に箱根宿が設置されると、東海道の本道は箱根路に移りましたが、その後も足柄路は脇往還ながら沼津・三島と甲州・相州（相模国）を結ぶ交通路として重用されたようです。

街道沿いでは「甲州街道」と呼ばれることもあります。沼津からは、甲州では貴重な塩や干物などの海産物を運び、甲州からは雑穀や材木などがもたらされました。

現在も幹線道路として交通量の多い県道沼津小山線（394 号線）の基となった道です。

「むかしの道路事情」

かつては、主要道といっても、現在のように舗装整備されているわけではありませんでした。明治 17 年（1884）「足柄古道道路景況一班（静岡大務新聞）」では…

“佐野村を過ぎ深良村に至る道路橋梁尽（ことごと）く粗悪なり。中就（なかんずく）其橋の如きハ車輪の幅員と相応せざるあり、其困難言ふ可からず。我社会称して御難所ろといふ。”　…とあります。自動車のない時代、険悪な道を徒歩や大八車などを引いて越えて行った、先人の苦労が偲ばれます。

昭和 30 年代の県道 24 号線（須山街道）　田口勝夫氏撮影

未舗装ですがきれいに整備され、オートバイが走っています。

「御殿場線（旧東海道線）」

明治 22 年（1889）、東京と神戸を結ぶ東海道線が開通し、平松地先に「佐野駅」が設置されました。

佐野名所絵はがき・明治中頃の佐野駅前（現裾野駅）　　中川　力氏所蔵

東海道線の敷設計画の中で、鉄道当局では蒸気機関車への給水のための停車場を佐野付近に設置したいとの意向がありました。それを知った平松の名士、服部大蒲（だいほ）氏が、自身の水利権を提供して駅の開設を実現しました。

大正 4 年（1915）、駅名が裾野駅に改称されました。その後、昭和 27 年に泉村と小泉村が合併し裾野町が誕生しました。駅名が先にあり、後から町名が付いたわけです。

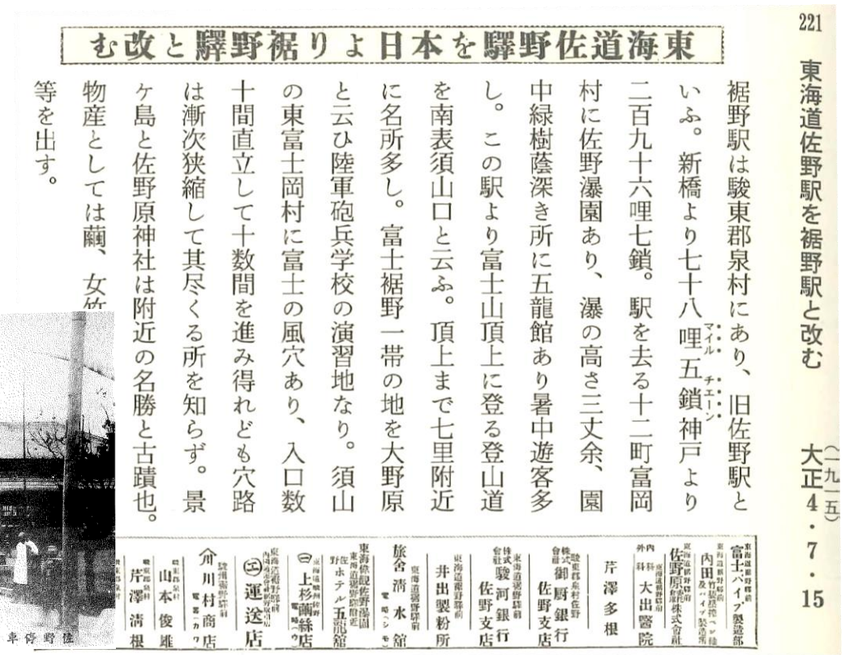
現在の駅舎は明治末頃に建てられたものです。特に待合室の天井は漆喰仕上げで、昔の面影を残しています。ホームは古レールを使用しており、中には 1885 年と刻印されたものもあります。駅を利用される際には、歴史ある建築物にも注目してみてください。

そして昭和 9 年、丹那トンネルが開通しました。

東海道本線は熱海・三島経由となり、国府津－沼津間は御殿場線となって現在に至ります。

なお、岩波駅は昭和 19 年に開設されました。

↓明治中頃の佐野駅（現裾野駅）



221　東海道佐野駅を裾野駅と改む　（一九一五）大正4・7・15

東海道佐野駅を驛野裾りよ日本を驛野佐道海東む改と

裾野駅は駿東郡泉村にあり、旧佐野駅といふ。新橋より七十八哩五鎖（マイル・チエーン）神戸より二百九十六哩七鎖。駅を去る十二町富岡村に佐野瀑園あり、瀑の高さ三丈余、園中緑樹蔭深き所に五龍館あり暑中遊客多し。この駅より富士山頂上に登る登山道を南表須山口と云ふ。頂上まで七里附近に名所多し。富士裾野一帯の地を大野原と云ひ陸軍砲兵学校の演習地なり。須山の東富士岡村に富士の風穴あり、入口数十間直立して十数間を進み得れども穴路は漸次狭縮して其尽くる所を知らず。景ヶ島と佐野原神社は附近の名勝と古蹟也。物産としては繭、女筑等を出す。

富士パイプ製造部
内田食料品店
佐野原製材株式会社
大出醤院
芹澤多根
株式会社御厨銀行
佐野支店
株式会社駿河銀行
佐野支店
井出製粉所
旅舎清水館
上杉商絲店
運送店
介川村商店
山本俊雄
芹澤清根

次号の『楽しい郷土史だより』は、市史第 4 巻 近現代 I の中から、近代教育について特集する予定です。

編集・発行　裾野市生涯学習課 文化スポーツ室　／　深良 435 番地　／　℡055-992-3800
当パンフレット『楽しい郷土史』は、市役所、生涯学習センター、鈴木図書館、市民文化センター、ヘルシーパーク裾野に配架しています。また、市ホームページでも公開しています。